

今日のキーワード アジアの「緩和的な金融政策」(アジア)

アジア経済は、中国景気の減速によって輸出が不振に陥り、足踏み状態が続いていましたが、各国の財政政策や「緩和的な金融政策」を受けて内需中心に回復傾向が見られます。特に、インドやASEAN4（フィリピン、インドネシア、タイ、マレーシア）の多くは、今年のGDP成長率が加速すると見込まれるなど好調です。これらの国では、インフレ率の低下や通貨の安定から、今後も「緩和的な金融政策」が続きそうです。

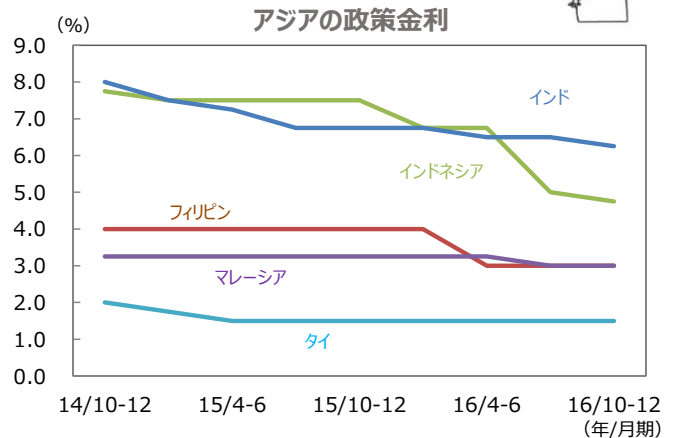
ポイント1 今年も金融緩和が続く インドネシア、インド、マレーシアが利下げ

- インドやASEAN4では、今年に入って利下げの実施が目立っています。マレーシア中央銀行は7月23日、7年ぶりに利下げし、政策金利を3.25%から3.00%へ引き下げました。インド準備銀行（中央銀行）は10月4日、半年ぶりに政策金利を0.25%引き下げ、6.25%としました。インドネシア中央銀行も10月20日、政策金利を0.25%引き下げ、4.75%としました。利下げは今年に入り6回目です。



ポイント2 インフレ圧力の後退 アジア通貨の安定が背景

- 利下げの背景には、資源価格の下落や食品価格上昇の和らぎなどによるインフレ率の落ち着きがあります。インドでは、モンスーン（雨季）に十分な降雨があり、食品価格の上昇圧力が後退したことも利下げを後押ししました。
- また、為替市場で、米国の利上げがかなりゆっくりとしたペースで行われるとの見方が強まり、ドル高圧力が後退し、各国の通貨が安定していることも利下げの背景です。



(注1) データ期間は2014年10-12月期～2016年10-12月期（10月末）。
 (注2) インドネシアは2016年8月より指標を7日物リバースレポに変更。
 (注3) フィリピンは2016年6月より翌日物借入金利スキームを変更。
 (出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 今後も金融緩和継続が見込まれる

- インドやASEAN4では、今後もインフレ率の落ち着きや通貨の安定を背景に、「緩和的な金融政策」が続くと見込まれます。7年ぶりに利下げを実施したマレーシアについては、年内にも追加利下げが予想されます。また、17年にも見込まれる総選挙を控えたタイや10月に利下げを実施したインドも、17年上期にかけ利下げを行う可能性があります。「緩和的な金融政策」の継続が、今後のアジアの経済成長や金融市場の安定に寄与すると期待されます。

ここもチェック! 2016年10月18日 最近の指標から見るインド経済（2016年10月）
 2016年10月 7日 ASEANの「PMI」（アジア）

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。